

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取り扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「 特別口座の場合 」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

■株主様のご住所・お名前等使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

第74期 株主通信 [中間報告書]

平成26年4月1日～平成26年9月30日



基本理念 Philosophy

- 1 わが社は、世界水準の製品を創り出すことにより、持続的な成長を遂げ、永遠の存在を目指す。
- 2 わが社は、有意義な製品とサービスを提供することにより社会に貢献する。
- 3 わが社は、国際社会に共生する一員であることを意識するとともに、法規等を遵守し、環境保全に努力する。
- 4 わが社は、すべての関係者・機関に調和のとれた満足を提供することを目標とする。
- 5 わが社は、互いの価値を認め合う人々の集団であり、熱意をもって向上・革新へ挑戦していく。

Our Products

平河ヒューテックの製品



各種デジタルインタフェースケーブル



電源コード



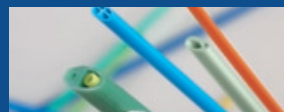
超音波内視鏡用ケーブル

放送用光波長多重伝送装置

ネットワーク用光波長多重伝送装置



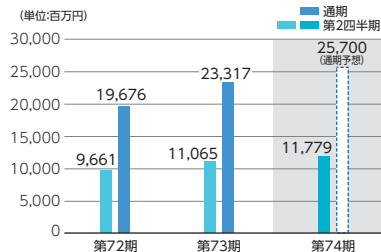
医療用補強材入りチューブ(体内使用)



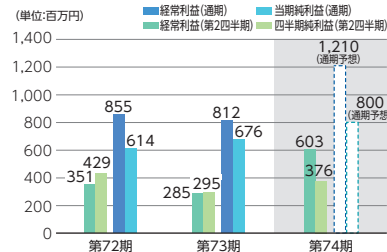
医療用多孔精密チューブ(体内使用)

連結財務ハイライト Financial Highlights

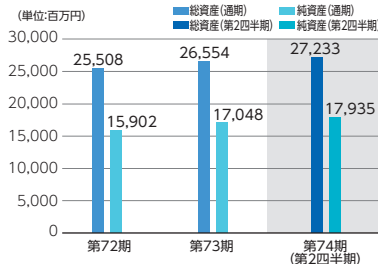
売上高



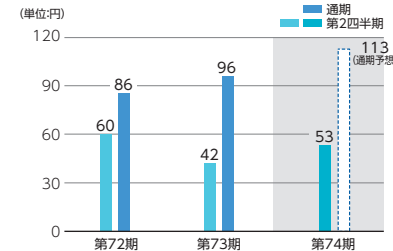
経常利益／四半期(当期)純利益



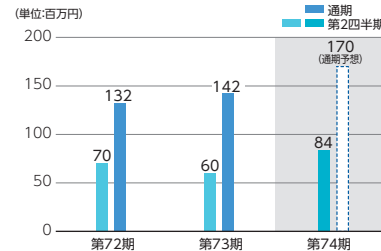
総資産／純資産



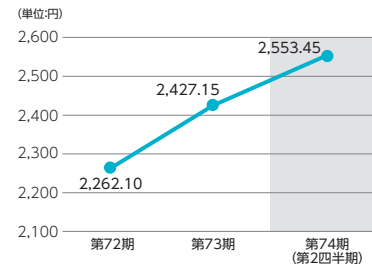
1株当たり四半期(当期)純利益



研究開発費



BPS(1株当たり純資産額)



株主の皆様へ To Our Shareholders



代表取締役 社長
目黒 裕次

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。第74期の株主通信〔中間報告書〕をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当社グループを取り巻くエレクトロニクス業界におきましては、ビッグデータ関連市場やエネルギー産業関連市場の需要が引き続き拡大基調で推移しました。

このような事業環境下において、当社グループでは、第74期の年度方針として、『新たな発想でイノベーションを加速しよう』を掲げ、経営資源をグローバルな観点で統合しグループの最適化を行い、常に新たな価値を発想し、より優れた独自性の高い製品やサービスをスピード感をもって提供すべく取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は117億79百万円(前年同期比6.5%増)となりました。売上高の増加及びコスト削減等により営業利益は4億99百万円(同72.7%増)、経常利益は6億3百万円(同111.7%増)となりました。四半期純利益は前年計上しました特別利益がなくなり、3億76百万円(同27.6%増)となりました。

当期の中間配当金につきましては、1株につき10円とさせていただきます。

役員・従業員一同、一層の努力をしてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)		
科 目	当第2四半期 (平成26年9月30日現在)	前期 (平成26年3月31日現在)
(資 産 の 部)		
流動資産	15,593	15,329
現金及び預金	3,370	3,321
受取手形及び売掛金	7,013	7,041
① たな卸資産	4,503	4,282
その他	704	683
固定資産	11,639	11,225
有形固定資産	9,175	9,073
無形固定資産	152	137
② 投資その他の資産	2,311	2,014
資産合計	27,233	26,554

(単位:百万円)		
科 目	当第2四半期 (平成26年9月30日現在)	前期 (平成26年3月31日現在)
(負 債 の 部)		
流動負債	5,682	5,481
③ 固定負債	3,614	4,024
負債合計	9,297	9,505
(純 資 産 の 部)		
株主資本	16,555	16,267
資本金	1,555	1,555
資本剰余金	1,459	1,459
利益剰余金	15,880	15,592
自己株式	△2,339	△2,339
④ その他の包括利益累計額	1,379	781
純資産合計	17,935	17,048
負債、純資産合計	27,233	26,554

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)		
科 目	当第2四半期 (平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで)	前第2四半期 (平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで)
売上高	11,779	11,065
売上原価	9,519	9,096
売上総利益	2,259	1,969
販売費及び一般管理費	1,760	1,680
営業利益	499	289
営業外収益	122	39
営業外費用	18	44
経常利益	603	285
特別利益	—	240
⑤ 特別損失	35	0
税金等調整前四半期純利益	568	524
法人税、住民税及び事業税	238	174
法人税等調整額	△42	54
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△3	0
四半期純利益	376	295

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)		
科 目	当第2四半期 (平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで)	前第2四半期 (平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	878	△99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△537	△185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△477	△491
現金及び現金同等物に係る換算差額	186	137
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	49	△639
現金及び現金同等物の期首残高	3,324	3,057
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	307
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,374	2,726

POINT① 「たな卸資産」は、前期末比2億21百万円増加となりました。主な要因は、電線・加工品の売上が増加したことに伴い、在庫も増加となりました。

POINT② 「投資その他の資産」は、前期末比2億97百万円増加となりました。主な要因は、「投資有価証券」が増加したことによるものです。

POINT③ 「固定負債」は、前期末比4億9百万円減少となりました。主な要因は、「長期借入金」の返済が進んだことによるものです。

POINT④ 「その他の包括利益累計額」は、前期末比5億98百万円増加となりました。主な要因は、円安の進行により「為替換算調整勘定」が増加したことによるものです。

POINT⑤ 「特別損失」35百万円の主なものは、事業構造改善費用34百万円で、福泰克（連雲港）電子有限公司（中国）の呉工場閉鎖に伴う費用であります。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

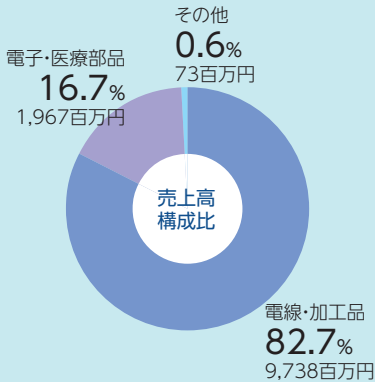
セグメント情報

電線・加工品

デジタル機器用ケーブル、半導体製造装置関連ケーブル及び車載用ケーブルの売上が堅調に推移したことにより、売上高は97億38百万円(前年同期比8.3%増)となりました。売上高の増加及びコスト削減等により、セグメント利益は5億67百万円(同45.4%増)となりました。

電子・医療部品

医療用特殊チューブの売上は堅調に推移しましたが、ネットワーク機器の売上が微減となり、売上高は19億67百万円(前年同期比1.6%減)となりました。競争激化による販売価格の低下及び償還価格の改定等の影響により、セグメント利益は1億57百万円(同35.8%減)となりました。



- 本社
- 営業拠点（営業所）
 - 営業本部
 - 東北営業所
 - 北関東営業所
 - 中部営業所
 - 関西営業所
- 開発・生産（工場・事業所）
 - 古河事業所
 - 桃生工場
 - 福島工場
 - 新潟工場
- 連結子会社（製造・販売）
 - 四国電線株式会社
 - 株式会社新潟電子